

宮嶋 望 (みやじま・のぞむ)

1951年、群馬県前橋市生まれ。自由学園最高学部を卒業後、22歳でアメリカに渡る。牧場実習をへて、ウィスコンシン大学畜産学部卒業(農学士)。78年に帰国し、農事組合法人・共働学舎新得農場を開設、代表を務める。チーズ職人、酪農家、事業家、科学好きの研究者など多彩な顔を持つ。フランスチーズに貢献した人に与えられる称号「フランスチーズ鑑評騎士(シュバリエ)」の一人。NPO法人「共働学舎」副理事長、十勝ナチュラルチーズ連絡協議会副理事長、北海道ブラウンスイス協議会会長など。著書『みんな神様をつれてやってきた』(2008年・地湧社)



連載第103回 特別インタビュー(その3)

心身に悩みを抱える人たちと新たな農業の可能性を追求する共働学舎新得農場代表

## 宮嶋望さん

聞き手 ルポライター 滝川 康治

# 「チーズづくり」と「共働」を軸に 実現させた新しい農業モデル。被災 者らも受け入れ新得で学べる機会を

寄付や補助金に依存することなく生産活動に励み、チーズづくりを軸にした新しい農業のモデルを実現させた共働学舎新得農場。その原点にあったのは、「欠けたところがある人間同士が協力しあい、ともに働いていく。ここは、お互いが学びあう家である」という考え方だった。創設者である父親との葛藤を経て、試行錯誤をくり返しつつ事業を軌道に乗せることができた今、宮嶋さんは人材育成にも力を入れる。インタビューの最終回は、「3・11」を機に転換期を迎えた日本社会のなかで、明日への希望の道を探る試みや今後の課題などについて聞いた。

寄付に頼ることを嫌って  
稼いだ金で自立する道へ

——宮嶋さんは著書のなかで、共働学舎新得農場は日本におけるソーシャル・ファーム(社会的企業<sup>1</sup>注を参照)的な動きのはしりだったと書かれています。ソーシャル・ファームが注目されるのは社会的な目的の実現に寄付や援助だけではなく、ビジネスの手法を取り入れた点であり、その仕事には採算性が考慮される。そこには、「社会的な弱者には経済的自立だけではなく、人としての尊厳が必要だ」という考え方があり——こう述べていますね。福祉施設的な側面のある共働学舎ですが、寄付には頼らずにやっていこうとしておられる。

宮嶋 共働学舎は、社会福祉法によらない形で始めているか

ソーシャル・ファーム＝障害者や労働市場で不利な立場にある人々のために、仕事を生み出し、支援付き雇用の機会を提供することに焦点をおいたビジネス。通常の労働条件で生産活動を行ない、製品・サービスを市場で販売し、利益を事業に再投資する形で、社会的な目的を実現させていく。1970年ころに北イタリアで始まった

ら補助金的なものが入ってきません。同じ障害を持った人たちを集めて、安全に管理する体制があれば社会福祉法人になれて措置費がもらえるけれど、そうじゃない。どんな人間だって欠けたところがあるんだから、協力して補いあって、ともに働いていく。お互いが学びあう家なんだ——というのが共働学舎の出発点でした。そうした発想を貫くのであれば、違う障害や病気、悩みを持った人たちが集まったほうがいいわけですよ。使える能力はバラバラであって、できないことを助け合えばいい。だから協力さえすれば上手くいくだろうと。理想主義といえば理想主義、楽観主義といえば楽観主義だよ(笑)。そこから始まっている。

——でも実際の運営にはお金がかかる。それは、共働学舎を創設した親父さん(※宮嶋眞一郎氏)が個人からの寄付を会費として集めてきたということですか。

宮嶋 寄付で集めたお金があったから僕らはスタートできた。ということは自分たちの生活が人の善意で支えられているわけです。でも僕はそれが嫌だった。自分たちが稼いだしたお金の範疇で生活するのが自立



助してもらっていたんですが、2年前に「いりません」と伝えた。でも、去年は口蹄疫、今年は震災で大変な目に遭っているけどね。えらいタイミングで言ってしまった、と(笑)。

そういうことで生活に関しては自立しています。すると中にいる人間たちが仕事をしないと、(他のメンバーが)「我々の負担になる」と実感する。逆に言うと、仕事をしない者は(周囲に)負担を感じさせていることが実際に分かるようになってくる。「我々はこうしているんだから、君はできることをやりなさい」と、こ



新得農場の朝食風景。自給を基本にした食事です。腹ごしらえ、それぞれの持ち場に出向く

れは筋が通りますよ。—— 稼ぎ頭のチーズが新得農場を支えてきたわけですが、他の部門はどんなウエイトを占めていますか。

宮嶋 農場の売上高は年間1億8千万円くらいで、そのうち約3分の2がチーズ部門になります。酪農は3千万円ちょっと。生乳をホクレンに売り僕らのチーズ工場が買い戻すわけですよ。野菜部門は300〜400万円くらい。雄牛を5、6頭ずつ肥育してクリスマス前にいっぺんに売り、協力会の人たちなどに購入してもらおうのが400万円くらいにな

ります。肉値が落ちてきているのでそんなに甘くないかな、と。豚や鶏のほうは自給+αくらいで、工芸も100万円いくかどうかです。ケーキ販売は300万円ほど。パンも販売高にして300万円くらいを女性一人で焼いてきました。

—— この交流施設『ミントール』では、チーズも販売していますね。

宮嶋 でも今回の地震の影響で自粛モードだね。お客さんがこない。だから今年も苦しい。チーズ以外に6千万円くらいの売り上げがあります。が、採算が取れて人件費まで出せているかと言うと、そうじゃない。生活費や人件費の一部はチーズ部門から回している感じですね。だからチーズ側には文句を言う者も出てくる。「チーズが評価されているのに給料が安い」と思い、よその工房の若い連中と「いくらもらっているんだ」とやっているわけ。チーズ工場のスタッフにはほどほどの給料を払って



食後のミーティング。この日は長野の共働学舎からやってきたメンバーが報告する場面も

いるけれど、僕よりも高いんだよね(笑)。

—— いろいろあるんだなあ。これだけの工場の設備や牛舎関連などの経費は相当かかりますよね。

宮嶋 結構借金もあります。『ミントール』も交流施設という位置づけで5年前にできました。以前は工場の玄関でチーズを売っていたんですが、保健所の人が出て、「有名になっ



宮嶋さんの著書『みんな、神様をつれてやってきた』。生い立ちやアメリカでの生活を振り返る「自由を求めて」、新得に入植してからの出会いをつづった「仲間とともに」、チーズづくりの歩みをたどる「本物をめざして」、社会のゆがみを解決するためのヒントを記した「次の社会へ」で構成。悩みを持つ人たちの共生、農業や食のあり方、そこから見えてくる明日への希望について、実践を踏まえて書かれており、読者の心を打つ。(地湧社・1,900円+税)

であって、ここに集まった人たちが活かし、汗を流す場を創って収益を上げなければいけない。だから寄付を受けながらも、自分たちでリスクを負いつつビジネスを展開する道を探ってきた。そのためには投資をすることも必要になってきます。

親父は教育者だから「投資しても返せるわけがないだろう」と言うわけです。僕は「借りたものは返すのが道理。返せないというのは、一人ひとりのなかに可能性がないということか。あなたは『自労自活』(注を参照)なんて言っているでしょう。俺は生活費を切り詰めるのは得意だから、そこに金をかけずに給料を配る。自分たちで稼ぎだしたなかで

やればいける」と正論を吐いた(笑)。

結局、「それでやる」と言っただけの牛舎を建てたわけですよ。でも子どもは大きくなって教育費がかかり、どんどん人が増え、建物を造らなければいけない(笑)。なかなか難しいなと思ったけれど、特産物加工研究センターでチーズを正式に造れるようになり、売ってみると利益性が良かった。生乳で売るのが比べ

自労自活=1974年に長野県小谷村で発足した「共働学舎」の創設者・宮嶋眞一郎氏が創った言葉。競争原理や経済優先主義の社会から弾きだされた、心身に障害や悩みを持つ人たちとともに、自然のなかで農業や工芸などをしながら生活するという考え

て6倍になる…。—— 確かに額面上はチーズの利益率は高いけどね。

宮嶋 最初、60頭(の経産牛)から年間400トンの生乳を出荷する計画を立て、それで6人家族が10倍になったときに生活できるか、と考えた。当時は400トンで900万円くらいの手取りが残る時代でした。その10倍、9千万円を利益として生みだせるなら同じ量の生乳でも生活できるんじゃないか、と。計算してみると、チーズに加工したらいける。ホルスタインなら難しいけれど(乳成分の高い)ブラウンスイスならばできるよな。

思い描いた生活が実現して手応えを感じるようになる

—— 寄付に対する基本姿勢は?

宮嶋 自分たちで開拓して入っているのに「寄付で成り立ちます」というのは、すっきりしないじゃないですか。僕はこういう性格だから、(寄付を)もらうものももらうけれど、それは生産の基盤づくりに使った汗を流して稼いだ範囲で生活を考える、と。そうしないと自立心が湧きません。親父とはなかなか意見が

合わず「感性が違う」と言われたけれど、「土地や建物はあんたの名義。でも自分たちで稼いだ金で、思い描く生活を考えたいんだ」と言った。「できるわけがない」と反論されたけれど、「やる」と言っただけを集めてしまったわけです。

—— で、曲折を経ながらも、こうしてやってくるのができた、と。

宮嶋 それは僕の自信になりましたね。(新得農場のメンバーにとって)一番お金がかかるのは、国民健康保険などの社会保障と教育費なんです。その費用をNPO法人「共働学舎」から(年間)800万円ほど援



牛舎では早朝から給餌や糞の処理、搾乳などの作業が続く



共働学舎新得農場代表・宮嶋 望さんに聞く

『シントコ』を造ってきましたが、今は『ラクレット』まで無殺菌でやろうとしています。熱量がかからないのと同時に味が良くなるから、ヨーロッパに負けないものになる。それをするには衛生管理のシステムをき

たんだから、そろそろ本格的なものを造って「売れませんか」という話がありました(笑)。  
——借金を返しながら、火の車ではあっても回転させ、生活費を賄い、スタッフの給料も払ってきた、と。いつから「いけるな」と手応えを感じるようになったんですか。

い。いきなり2400万円の借金だからね。

### 各部門の責任者が切り盛り より高付加価値のチーズを

——これからの共働学舎はどうされるのか。いつまでも宮嶋さんが奔走するわけにはいかないですね。

宮嶋 僕は来年からお金の心配をしないで自由なことをしたいんだけど、そうならないから困るんだ。でも各部門の責任者に任せ、予算面まで切り盛りさせてはいる。だから現場のマネジメントはできるようになってきましたね。

——大黒柱であるチーズ部門の今後の方向性や事業の広がりには？

宮嶋 生乳の生産量はあと2割くらいしか伸ばせません。チーズの売り上げも同じ伸びだと寂しいから少しずつ付加価値の高いものにスライドさせようとしています。同時に経費を落とす。無殺菌で

手描きの共働学舎の施設配置図。入植から33年、次々に建物が増えた



宮嶋 『さくら』(※新得農場のチーズ商品)が売れ出したからだから、3〜4年になりますね。

### 何をやるかは本人が決める 研修寮を設け人材づくりも

——障害者手帳を持っているメンバーは10数人と聞いたのですが、そうした人たちはどんな仕事をしていますか。

宮嶋 何がしたいのか、何ができるのかは本人に決めさせます。もちろん僕らもアドバイスするけどね。

——新しく入ってくる人と長くなる人の割合は？

宮嶋 だんだん長くなる人間が多くなっているけれど、研修寮も造ったので入れ替えをしていかなければなりません。この春も5人くらい辞めていき、新しい人が入ってきた。

——その人たちは、ひと通り仕事をやってももうわけですか。

宮嶋 ざっと見せておき、やりたいことをやってもらうわけですね。主体的なもの



新得町の郊外に広がる共働学舎の牧場。石勝線や日高の山並みを望むことができ、草地のなかに樹木がほど良く残る

ちゃんと整え、信頼のおけるものを造っておかなければならない。生乳の品質はいいところにきていますが、乳房炎をなくしたり牛舎まわりをきれいにして雑菌を減らし、安全であるという証明を積み重ねなければなりません。そのシステムはすでに実現しているもの、お金がかかる。自前でやるか、もう少し経費がかからない方法で取り組むかを考えています。付加価値の高いチーズにしていけば、今よりも4〜5割は収益を上げられるんです。

『酒蔵』を開発(先月号を参照)したり、『さくら』のファイネ(注)フランス語で「熟成させた」の意)を造る。そ

を考えさせないと責任を持つことにならないからね。やりたいということをしてもらおうと競争心とかが働いて、少しずつできることをするようになる。僕らはできたことは認めていく、と。

——年代的にはどんな人たちが入ってくるんですか。

宮嶋 20代が多いのですが、10代から50代までいろいろいます。

——ここから出ていく人たちは？

宮嶋 この春、一家族は自分の出身地に、もう一人の女性も福井県の故郷に帰って新規就農しました。就職をしたり、学校に戻る人もいます。——向うに見える研修寮には、どんな人たちが入るんですか。

宮嶋 チーズを造りたい人、牛飼いや有機農業を志す人もいます。

——若い人が多い、と。

宮嶋 こちらもそのほうがやりやすい。半年から3年ほどいて、自分のところに帰っていく人が多いね。

——共働学舎のどこに魅力を感じてきているのかな。

宮嶋 チーズは有名だし、考え方を学びたいというのがありますね。「バイオダイナミック農法」(注)を参照を教えてください。場所はあまり

ないから、それをやりたい人もやってくる。有機農業の連中はみんな、あまり余裕がないから研修生をおけないですね。だから、うちでは可能性がありますよ、と。あとは、フランススイスのことを聞いてやってくる人もいます。

——研修寮の入居者は？

宮嶋 2家族と男性3人、女性4人です。1階に研修室を設けたので男性向けの大きい部屋を造れなかった。女性は2人部屋。去年、建設しました。

——ここに訪れるたびに新しい建物ができていくなあ。

宮嶋 どれからお金が入ってくるのという感じだけだね(笑)。

研修寮の建設費は8千万円ほどかかり、5割が国の補助金、2割は町が出してくれて残りは自前で調達だから、これがきつ

バイオダイナミック農法=自然の営みを無視した農業の近代化に疑問を持ったドイツのルドルフ・シュタイナーが提唱した農法。有機農業の手法の一つで、太陽や月、惑星と地球の位置関係が土壌や生命体を与える影響を重視し、種まきから収穫までの時期を選択する。土壌バランスや植物を健康に保つために、人為的な化学物質は使用しないかわりに、天然のハーブや鉱物、家畜を利用して作った各種調剤を施す

本誌の取材で初めて共働学舎を訪れたころの宮嶋さん(1994年12月)



乳製品工場はエネルギーをものすごく使っています。製造コストが高くなる、安いタイプの工場産チーズの値段も上がってくる。僕らは、それと同じようにするのはなく、できるだけエネルギーを使わないほうにスライドしていく。放牧によって、牛の足を使って生産させ、肥料とかを使わないスタイルの酪農をやるようにする、と。





有機農業やチーズづくりなどを志す人たちを受け入れている研修寮

## 震災の被災者も受け入れて畜産の可能性を追求したい

——技術を高め、経費を下げていきながら、製品価格はそれほど上げなければ、日本が貧乏になってもやっていけることになりませうね。

**宮嶋** そうですね。そのときに、「こういう形でやっているから安全で、おいしいんです」と情報発信をしなければいけない。もう一つ、福島原発事故で心配しているのは、放牧酪農に対する影響です。

——特に原発に近い地域の農家は生産できなくなってしまうからね。

**宮嶋** (大学で)放射線物理を勉強した経験から言うと、リンやカルシ

ウムを十分に与えることで牛が取り込むストロンチウムやヨウ素、セシウムの量は減るわけです。発酵作用を経ることによって放射性物質を軽減できる、と言っている人もいます。長崎に原発が落とされたあと、「お味噌汁で放射線の症状を抑えられる」と、秋月辰一郎さんという医師が病院の看護婦らに(味噌汁を)飲ませました。彼自身も原発症の症状が出ないで90歳くらいまで生きていた。発酵作用や塩分が原発症に効いたわけですが、理屈では説明はつくものの、誰も証明していない。ただし、放射性物質に対して乳酸菌や発酵作用が免疫力を維持する効果がある、とは言ってもいいと思う。

——スリーマイル島原発事故から10年後くらいに、原子炉の蓋を開けたらバクテリアが繁殖して藻のようになっていた、といえますね。

**宮嶋** 太古の昔は、地球の気候は紫外線や放射線を今のようには防げなかった。そのなかで、生命が出てきた——最初は光合成細菌です。放射線のなかで生き残る術を持っていた、酸素を出すことによって放射線はある程度は防げるようになった。もっともきびしい環境で生きていた

古代の菌は平気なわけです。サンゴのなかにはストロンチウムを餌にして食べるものもいる。そうした新陳代謝の回路を通ると放射線は弱まります。自然の与えてくれた素晴らしい環境のなかで、我々はこのように生活していたわけですね。

——世の中が悪化していても、乳酸菌もチーズも、そして共働学舎も生き残れるだろう、と(笑)。

**宮嶋** 共働学舎と言っているのかわからないけれど、努力しなければなりませんね。僕らは、チーズ部門が稼いでいる間に畜産や有機野菜、豚や鶏をもう少し増やしていきたい。まだまだ夢なんです(第2牧場を造ろうか)という話題も出てきた。そちらが生産を上げていかないと、増えていきそうなニーズに対応できない、という話なんです。

——今は70人ほどの共働学舎のメンバーは、もっと増えそうですか。

**宮嶋** そうならざるを得ないでしょうね。この状況になって(大震災や原発事故で)被災した人たちが受け入れないとは言えない。その人たちが「家族で新得に来て農業を勉強したい」と言うとき、僕は畜産について応えたい。耕作放棄地にも

草は生えるので、穀物を主体にするのではなく牛や羊、山羊を放せばいい、と。搾乳をするだけだからバケットミルクと100ポルトで動く真空ポンプがあればいい。大きな機械はいらず、お金をかけずにやれるわけです。それがおいしいチーズになれば売れる。収益が上がるシステムが持続可能なら牛だと10頭くらい、羊や山羊でも100頭くらい飼っていれば、なんとか生活できます。遊休地はいっぱいあるから畜産でいける。道具もそんなにいらなし、家さえ建てればなんとかなる。そうした生活ができるという実例を示していきたいですね。

——一般の人はこちらも被災者も受け入れていきたい、と。

**宮嶋** そうですね。畜産の仕事を見て、地元に戻るのであれば帰ると。故郷には自分の思いもあるだろうからね。研修寮なんかは、そういう形で使いたい。もし可能ならば、新得で就農してもいいと思う。

——暗い時代にあつて、一筋の光明を見るようなお話でした。ありがとうございます。

**宮嶋** 僕の名前は望だから、希望を失えないですね(笑)。